

## 収支計算書に対する注記

### 1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、前受金、前受会費及び預り金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	3,590,979	13,766,621
振替預金(会費)	23,979	6,444,439
振替預金	0	461,800
普通預金	3,567,000	6,860,382
未収金	0	137,251
前払金	0	2,082,500
合 計	3,590,979	15,986,372
未払金	0	3,560
前受金	102,000	453,000
前受会費	0	6,026,500
預り金	111,353	83,009
合 計	213,353	6,566,069
次期繰越収支差額	3,377,626	9,420,303

### 3. 予算額と決算額との差異が著しい科目及びその理由

- (1) 学術集会事業収入の ASV11 収入が予算に対し増加となったが、当日の一般（日本人・外国人）参加者が当初の見込より多かったからである。
- (2) 学術集会事業収入の PIV11 収入が予算に対し増加となったが一般および学生の参加者が当初の見込より多かったことおよび当初見込んでいなかった論文集 CD の販売を行ったからである。
- (3) 学術集会団体参加収入の PIV11 収入が予算に対し増加となったが、当初の見込より企業の参加が増えたからである。
- (4) 学術集会等事業費支出の ASV11 支出が予算に対し増加となったが、参加者が当初の見込みより多くなり、人件費および懇親会費が増えたからである。
- (5) 国際会議準備金取崩収入が予算に対し増加となったが、2013 年開催予定の FLUCOME 国際会議の準備のため取崩したからである。
- (6) 国際会議準備金積立支出が予算に対し増加となったが、今後の国際会議の開催スケジュールの見込に合わせて積立てたからである。